

患者調査に基づく循環器疾患受療率の動向把握

1. 解析方法

患者調査（1996～2017年）における推定患者数を基に、35歳以上における循環器疾患、高血圧性疾患、心疾患（高血圧性のものを除く）、虚血性心疾患、脳血管疾患、腎尿路生殖器系の疾患（糸球体疾患、腎尿細管間質性疾患及び腎不全）の年齢調整受療率を算出し、男女別の動向を検討した。年齢調整は循環器疾患の死亡率の動向把握と同じ手法を用いた。2011年は、福島県と宮城県の石巻・気仙沼医療圏が調査対象から除外されたため、厚生労働省「東日本大震災等の大災害と保健医療統計の分析・評価・推計に関する研究」¹⁾による補完後の推計患者数を用いた受療率を算出した。福島県については、2011年と2012年の医療施設調査と病院報告と2012年の患者調査を元に2011年の受療率を推計した。

2. 結果

全循環器疾患の年齢調整受療率（人口1万人対）の動向を図1（男性）、図2（女性）に示した。福島県では、男性は2005年まで有意に減少していたが、2005年以降横ばいに転じた。女性では、2005年まで同様に減少していたが、2005年以降も横ばいに転じた。他の9県は有意な減少また減少傾向が認められた。

心疾患について図3（男性）、図4（女性）に示した。福島県は、男女いずれも2005年まで減少傾向だったが、2005年以降有意ではない増加傾向に転じた。他の9県では全期間を通じて有意に減少していた県が多かった。

虚血性心疾患について図5（男性）、図6（女性）に示した。福島県は、男性では全期間を通じて減少傾向が認められた。女性では2005年まで減少傾向だったが、2005年以降横ばいに転じた。他の9県では全期間を通じて減少していた県が多かった。

脳血管疾患全体について、図7（男性）、図8（女性）に示した。福島県では、男女いずれも全期間を通じて有意な減少が認められた。他の9県も男女いずれも同様の傾向が認められた。

高血圧性疾患について、図9（男性）、図10（女性）に示した。福島県では、男女いずれも全期間を通じて有意な減少が認められた。他の9県は男女いずれも全体的には減少あるいは減少傾向が認められた。

糸球体疾患・腎尿細管間質性疾患及び腎不全について、図11（男性）、図12（女性）に示し

た。福島県では、男女いずれも有意ではない増加傾向が認められた。他の9県については、全期間を通じて有意に増加していた宮城県と栃木県の男性を除いて、男女いずれも有意な変化は認められなかった。

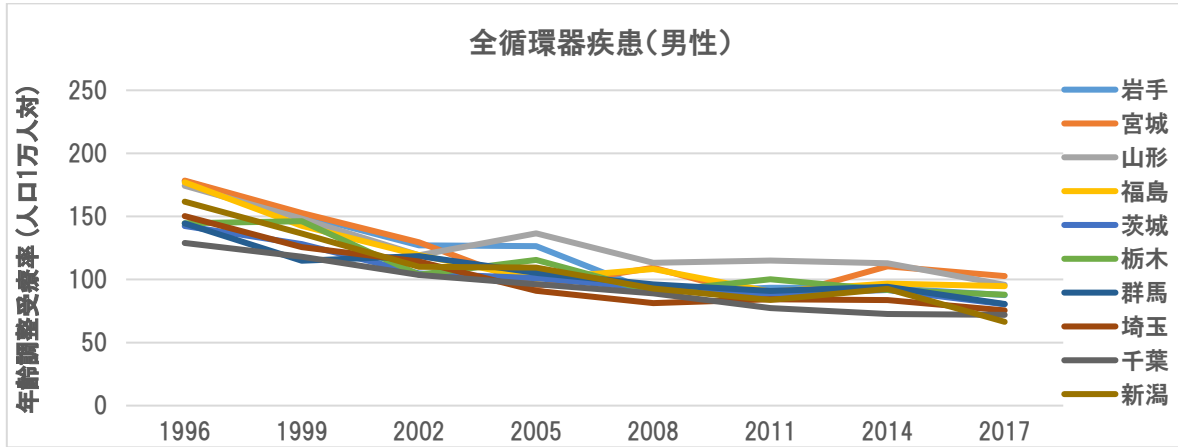


図1 全循環器疾患年齢調整受療率（男性35歳以上総数, 人口1万対）

※福島県のみ2012年に患者調査が行われている,以下同様

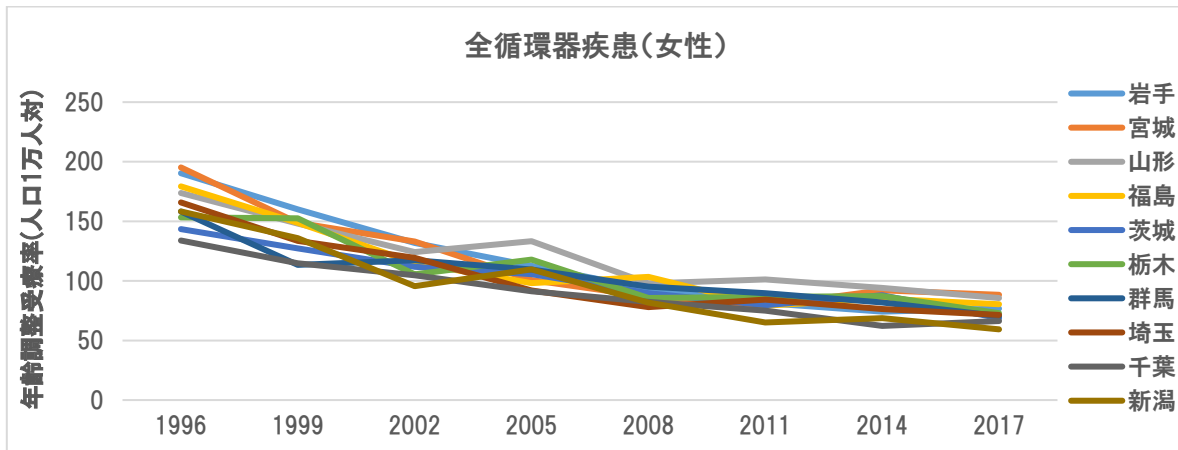


図2 全循環器疾患年齢調整受療率（女性35歳以上総数, 人口1万対）

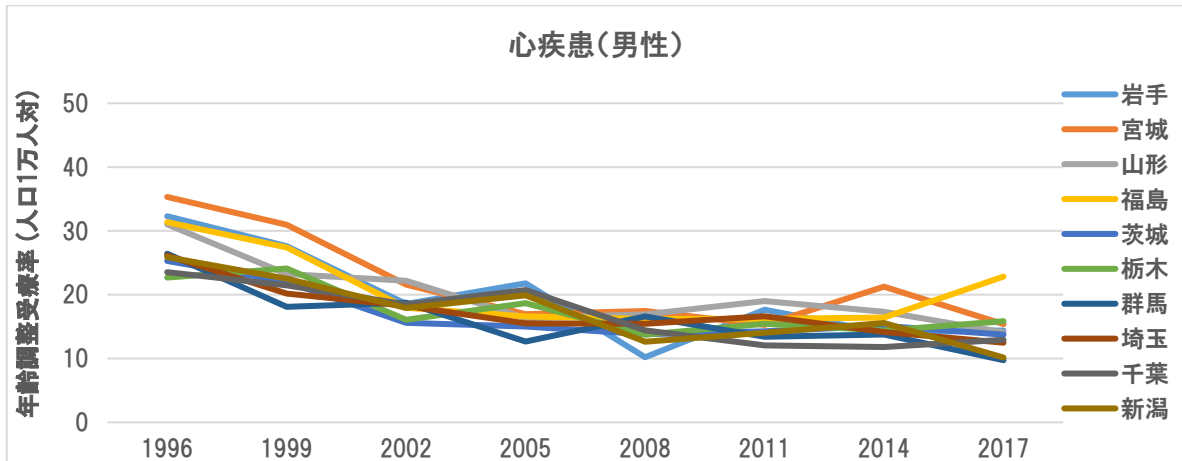


図3 心疾患年齢調整受療率（男性35歳以上総数,人口1万対）

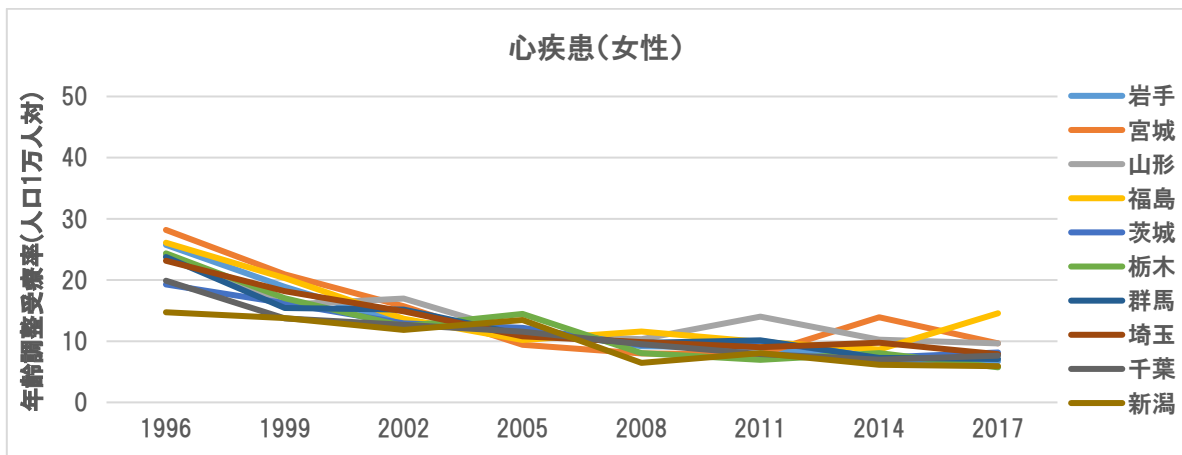


図4 心疾患年齢調整受療率（女性35歳以上総数,人口1万対）

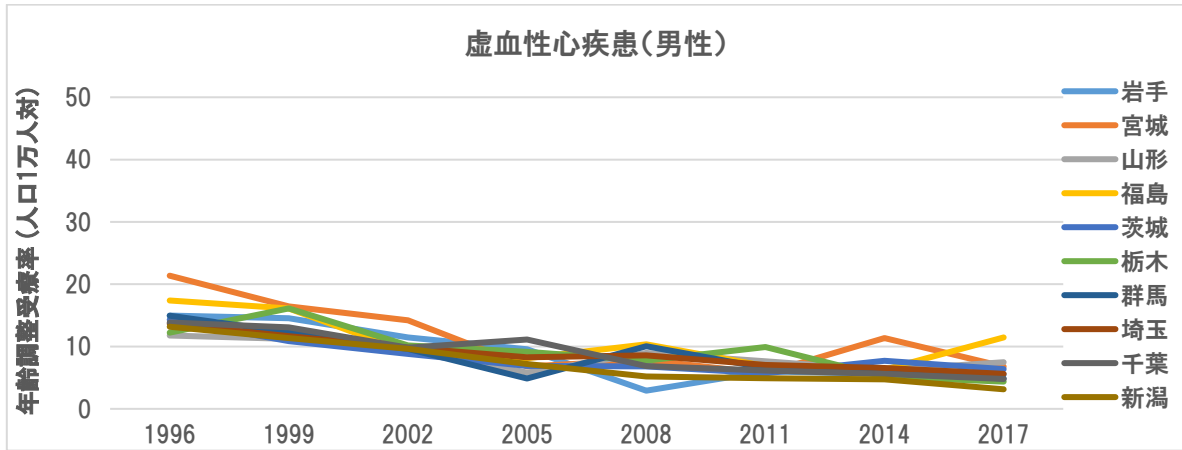


図5 虚血性心疾患年齢調整受療率（男性35歳以上総数, 人口1万対）

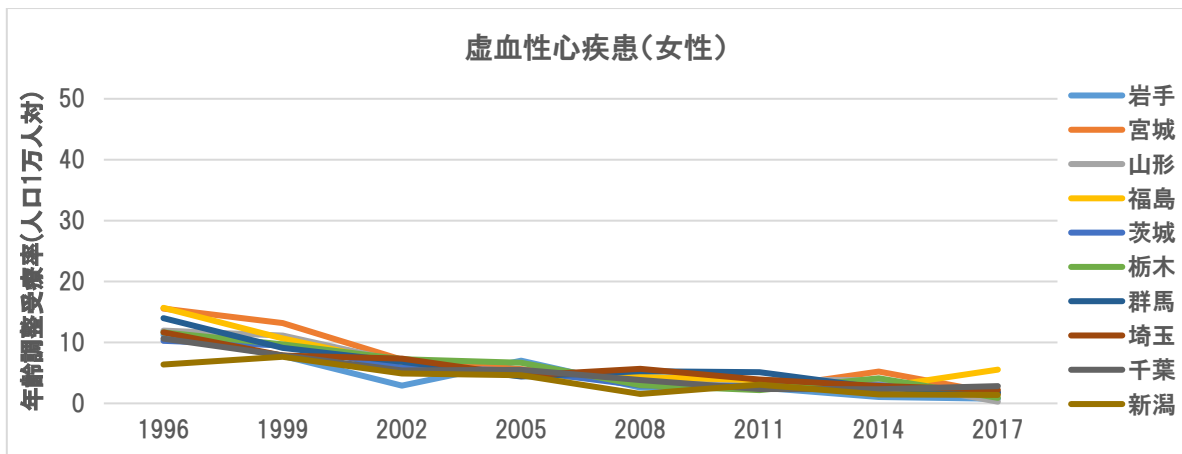


図6 虚血性心疾患年齢調整受療率（女性35歳以上総数, 人口1万対）

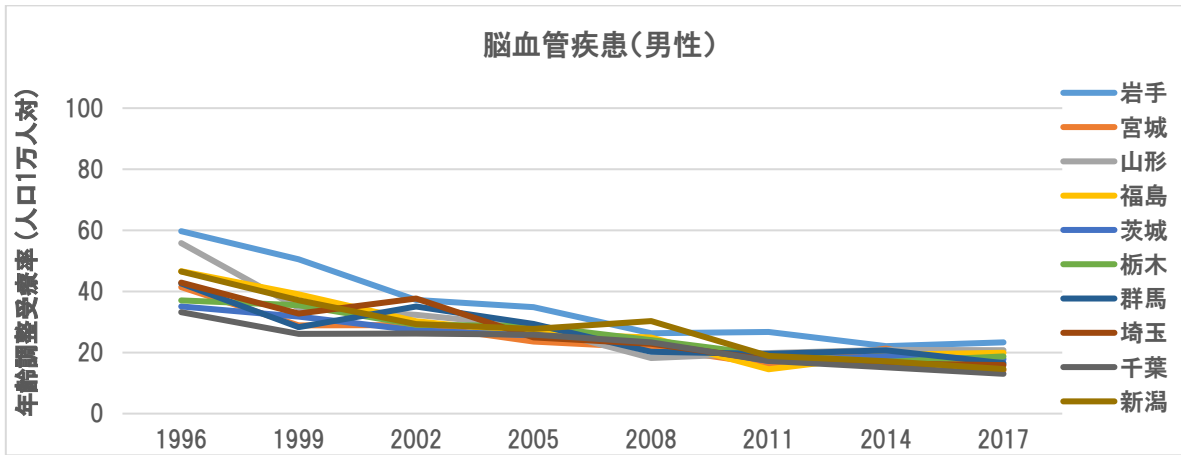


図7 脳血管疾患年齢調整受療率（男性35歳以上総数, 人口1万対）

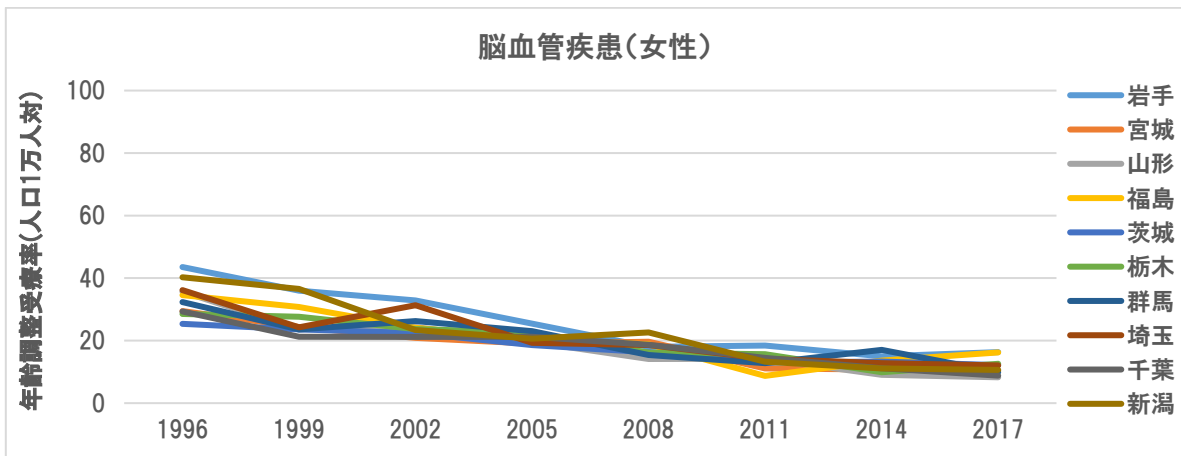


図8 脳血管疾患年齢調整受療率（女性35歳以上総数, 人口1万対）

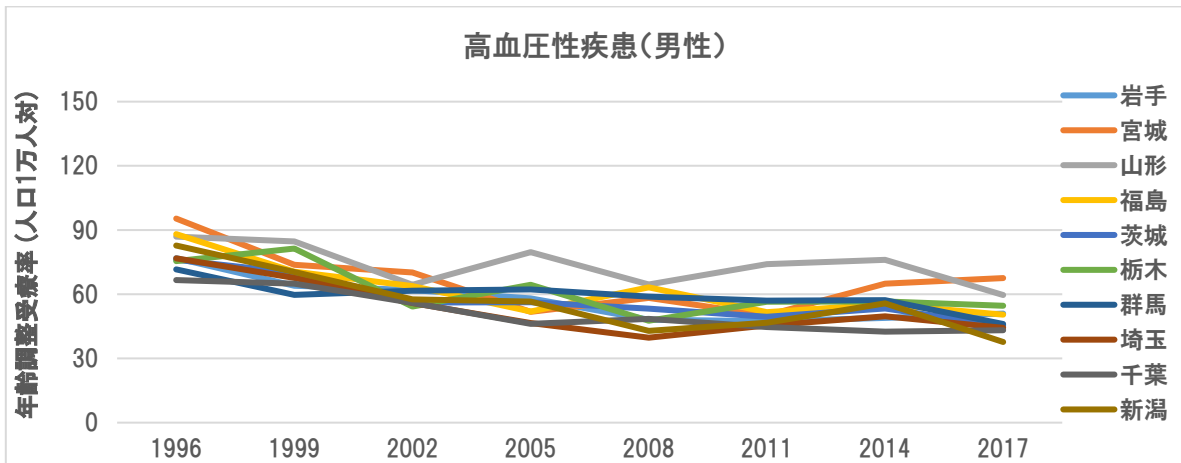


図9 高血圧性疾患年齢調整受療率（男性35歳以上総数,人口1万対）

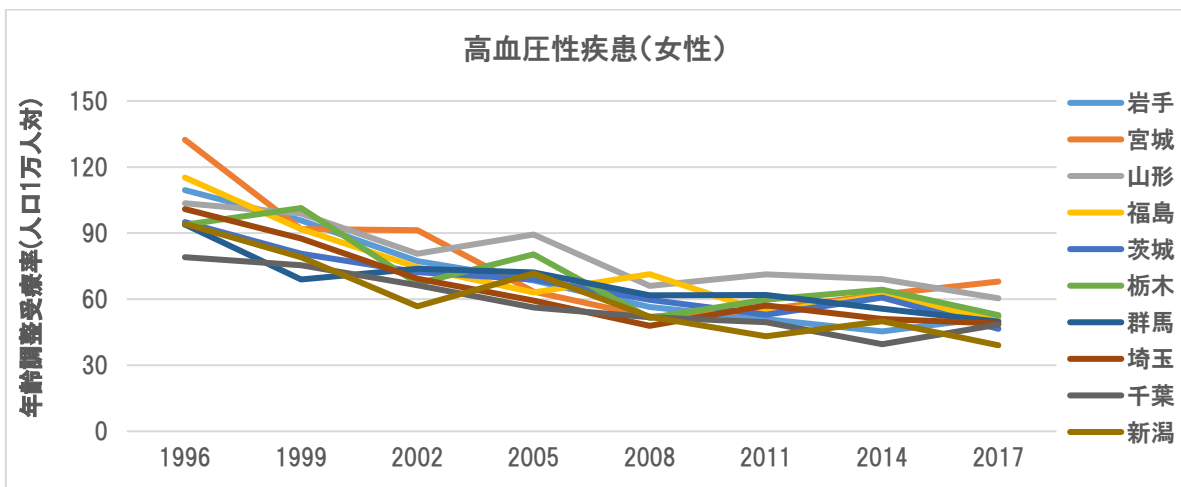


図10 高血圧性疾患年齢調整受療率（女性35歳以上総数,人口1万対）

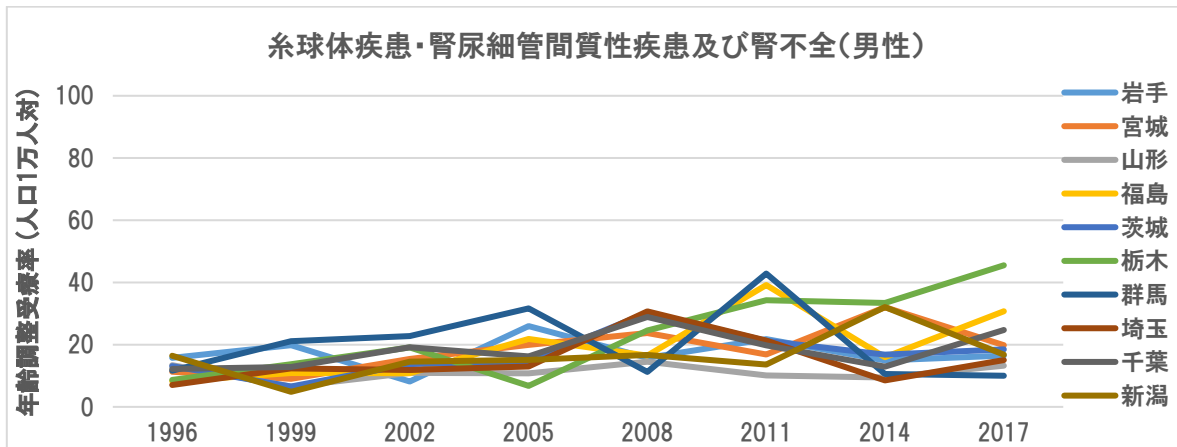


図 11 糸球体疾患，腎尿細管間質性疾患及び腎不全年齢調整受療率（男性 35 歳以上総数，人口 1 万対）

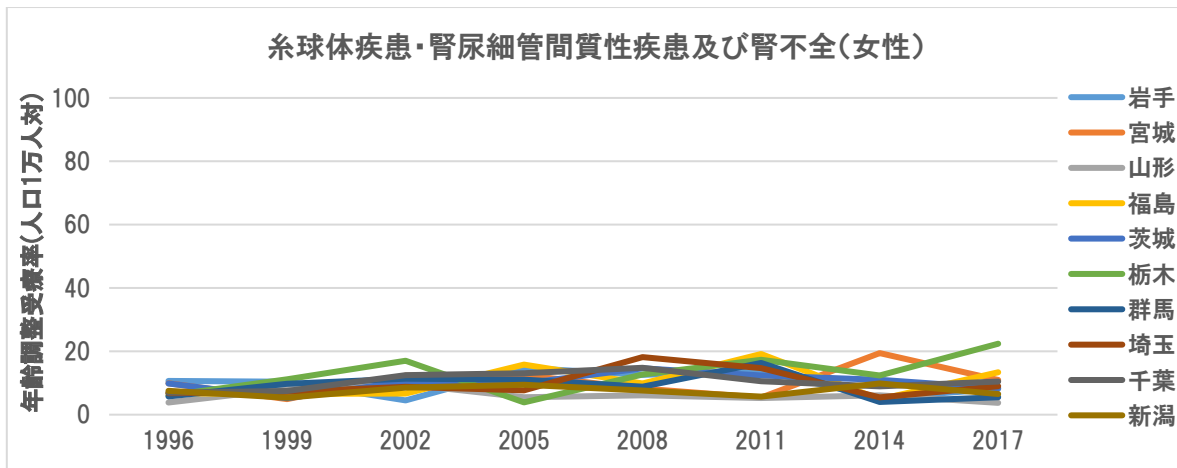


図 12 糸球体疾患，腎尿細管間質性疾患及び腎不全年齢調整受療率（女性 35 歳以上総数，人口 1 万対）

参考文献

1. 橋本修二ほか. 東日本大震災に伴う保健統計の世帯数と患者数の補完推計. 日本公衆衛生雑誌 2015;62(10):617-623.